

国立大学博物館等協議会

岩手大学ミュージアム館長 岡田 幸助

十月七日に農業教育資料館で第八回国立大学博物館等協議会が開かれました。この協議会は全国にある国立大学の三十四の博物館と美術館で構成されています。今回三機関が参加したので三十七館となりました。それぞれの持っている問題点を話し合い、活動の進展を図ろうとするものです。会場は今まで東大や名古屋大学など旧帝大の大きな博物館で開催されていましたが、今回は誕生間もない、それも学内措置で造った岩手大学ミュージアムで開催していただけたことは本当に光栄です。

これまでの協議会では会議の後で、施設見学をするのですが、今回は会議の前にまず岩手大学ミュージアムを見ていただきました。実は私としては施設そのものを見ていただくよりも、解説ボランティアの皆さんの活動を見ていただきたかったのです。村上シゲさんに案内いただいた京都大学の犬野先生は「シヨックを受けるほど感激した。これほど大学を愛しているとは。学生さんにも良い影響がありますね」と言っていました。会議には岩手大学からの参加者を除

いて二十六機関、五十四名が参加しました。その中で単に自分たちの博物館の紹介や自慢をするだけでなく何か実のある議論をしたいということで、北大の藤田館長に「大学ミュージアムのあり方と協議会」について、スクリーンを使用して話題提供をしていただきました。内容は北大の現状紹介に始まり、多くの提案を含む示唆にとんだすばらしいものでした。後の感想で参加者は誰もが、レジュメがほしいと言っていました。東京芸大の薩摩先生は「大学のお宝―ユニバーシティ・ミュージアム合同展」を具体的に提案され、各大学のお宝を一点持ち寄り、上野の森で展示することになりました。さて我々岩手大学は何を持ち込むか考慮中です。



おかげさまで、歴史を感じさせる雰囲気の中で、会議ができました。懇親会には、平山、海妻両先生が出席してくださり、学長先生

がミュージアムを支持してくださっている姿勢が具体的に参加者に示され感謝でした。山本先生の名司会で懇親会参加の皆さんも熱い意見を出し合い、満足なさったのではないのでしょうか。一人ひとりにマイクが回されましたが、建物を持たない地方の小さなミュージアムや、これから作ろうとしているところの声なども次々に出てきて、大変参考になったようです。今回の成功も解説ボランティアの皆様、事務の方々、部門委員の方々のお陰です。皆様本当にありがとうございました。

イーハトーブの風を世界に

いわて地球市民フォーラム開催

―岡田館長らがコメント―

岩手県青年海外協力隊を育てる会の創立二十周年を記念する「いわて地球市民フォーラム」が十月九日、本学農業教育資料館で開催された。

岩手大学など五団体（県海外青年協力隊を育てる会、同協力協会、JICA帰国専門家岩手県連絡会、国際協力機構東北支部）が主催して開かれたフォーラムには、岩手大学から海外協力の経験を持つ岡田幸助館長を初め藤井克巳農学部長、鳥巢諒^{トリノスガヨウ}同教授がコメントターとして登壇。

それぞれ海外での活動の体験とそこから得た教訓などを紹介した。

岡田館長は一九九六年、ザンビア大学に獣医学部を創設するプロジェクトに参加したときの体験を報告。そこから「飢えている人には魚を与えるのではなく、魚の獲り方を教えた方が効果的である」との教訓を得たという。



（写真右端は、海外協力についてコメントする岡田館長）

キャンパスの植物



シモバシラ（しそ科）別名・ユキヨセソウ
シモバシラは、枯れた茎でも毛管現象で水分を吸い上げ、冬の朝、茎に霜柱が着くという珍しい現象があるので知られている。十二月から一月上旬の水点下の朝、観察して見ましよう。

（高橋 一雄）